

水俣病
の波紋

お魚ノイローゼ

店にはクジラだけ

カンヅメで恐さ忘れ

華北地方は最近水俣病せん風にあおられ魚類がさっぱり売れず

漁協、業者は頭を痛めている。以下は各町村の表情―。

華北町は猫が死んだという噂で町内はもちきりで、同町漁協の売上は三割減、このため十七日「組合の販売する魚は安心して食べて下さい」と声明書を出してウワサのまき返しに出ているが、あまり効果はあがっていない。湯浦町の魚屋の話ではタコ、ホウなど近海ものをさけてイワシ、サバを仕入れたが、それでも売れずにくさってしまい、クジラだけ売っているが商売にならないといっている。

同町にはこれまで二十五、六人の行商が死りにきていたが、買手がないために二、三日は一人もこないそうだ。

田浦町漁協では水揚げとこれまでと変わらないといっているが、行商人は漁り魚も売れずに困っている。同漁協ではこのほど役員会を開いて水俣病

海の魚はとらないよう申し合せた。町のウワサでは猫も死んだが、魚を食べた鶏も死んだから魚も鶏肉も豚も怖いとかなり神経質になっている。

また津奈木村は水俣に近だけに魚は食べないという声がかなり多く、もっぱら牛肉か魚の缶詰ものでまかなっているという。噂は噂を生んで同村では近海魚でも十八貫までなら食べても大丈夫だ、その人の体重までは安心だとか科学的な説？まで出ており漁協では目下対策を練っている。